



Vol.47 新春号
発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2-3
CiCビル3F 富山市民国際交流センター内
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



あな



たの
こと
も
だい

あけまして おめでとうございます 富山市民国際交流協会

国際交流
フェスティバルINTERNATIONAL
EXCHANGE
FESTIVAL日時 2004年10月
23日 土 pm1:00～pm5:00
24日 日 am10:00～pm4:00

場所 CiCビル内/CiC前広場

主催 国際交流フェスティバル
2004実行委員会共催 JICA北陸／(財)とやま国際センター
富山市民国際交流協会

後援 富山県／富山市

参加団体名
AJA FOUNDATION
ウィメンズウィングトヤマ
ガールスカウト日本連盟富山県第19団
言語交流研究所ヒップファミリークラブ
国際ソロバニスト富山
富山県国際理解教育研究会
JICA北陸
青年海外協力隊富山県OB会
NPO法人地球映像ネットワーク
富山WHYランゲージンサエティ
富山外国語専門学校
富山韓国留学生会
富山県国際理解教育研究会
富山県青船会
富山県青年国際交流機構
富山県日韓親善協会
富山県婦人会富山支部
(財)とやま国際センター
富山国際大学 国際教養部
とやま国際理解教育研究会
富山市貿の会
富山市民国際交流協会
富山・中国ネットワーク
富山日豪ニューズランド協会
とやま日中文化交流会
富山ベンチャークラブ
富山ユネスコ協会
日本語教師会ゆうゆう
日本国際連合協会富山県本部
(社)日本ワーキング・ホリデー協会
歩歩の会
マレーシア留学生協会
Unified Families Friendship Association
(財)ラボ国際交流センター

「国際交流フェスティバル2004」は、小川弘実行委員長の開会宣言で始まりました。このフェスティバルは、国際交流、国際協力団体等の参加と関係者やボランティアの協力により、各種の催事とおして市民と外国人との交流を行います。また、関係団体の国際交流や協力に関する活動の啓発及び情報等を広く発信し、多文化へのふれあいを通して地域国際化に対する理解を高め交流を深めることを目的に行われました。

今年は、会場が富山駅前の商業ビル CiC の一角という場所で催されたのでいろいろな課題もありましたが、新たな雰囲気の中で新鮮さも感じられました。

野外ステージやブース、室内の各会場は、それぞれに大勢の人たちで大変賑わって楽しく交流の輪をひろげ親善を深めました。



民族衣装ファッションショー

場 所	23日(土)	24日(日)
前庭	ステージ 開会式 世界の国からこんにちは、太極拳・木蘭扇(とやま日中文化交流会)、富山県民謡(富山市民国際交流協会)、気功法、中国歌(富山市民国際交流協会中国語講座)、韓国歌(富山市民国際交流協会ハングル講座)、日本語劇(富山市民国際交流協会日本語講座)、ジャグリング 他	冬のソナタ(富山・中国ネットワーク)、ハワイアンダンス・フラ、バンド演奏、外国人カラオケ大会、世界の歌(財)ラボ国際交流センター)、二胡演奏(歩歩の会)、ハーモニカ演奏(WHYランゲージンサエティ)、サルサ、リトルサンバ 他 閉会式
	ブース とやまの国際交流・協力団体大集合!、活動紹介、各国手工芸品販売、各国料理店 など	
1階	アトリウム ユネスコ世界遺産写真展(富山ユネスコ協会)、海外研修パネル展示(富山市民国際交流協会)	
3階	交流広場 民族衣装試着・記念撮影コーナー、折り紙体験コーナー	民族衣装ファッションショー、民族衣装試着・記念撮影コーナー、折り紙体験コーナー
	学習室(1・2・3) 国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール(日本国際連合協会富山県本部)	英語表現コンテスト(日本国際連合協会富山県本部)
	学習室(4)	ワーキングホリデー説明会(財)日本ワーキング・ホリデー協会)
	学習室(5) 異文化理解講座(富山国際大学 国際教養学部) ● 資料展示・ビデオ・DVD鑑賞・中国茶試飲 ● 英語スピーチコンテストビデオ上映 ● メキシコ遺跡ビデオ(ティオティワカン遺跡)	異文化理解講座(富山国際大学 国際教養学部) ● 資料展示・ビデオ・DVD鑑賞・中国茶試飲 ● 講演会「メキシコの遺跡を知る」 ● 英語によるアフリカ紹介
	音楽・映像室 世界自然・野生生物映像祭受賞作品上映会(NPO法人地球映像ネットワーク) ビデオ上映会(国連婦人開発基金(ユニフェム)富山委員会設立準備連絡会)	
5階	会議室(1・2) 国際交流チャットコーナー {ブルガリア、セルビア・モンテネグロ、南アフリカ共和国、} 世界のお茶コーナー {ブータン、オランダ、オーストラリア、マレーシア、英国}	
	多目的ホール 県民シンポジウム(財)とやま国際センター) 「JammRekkアフリカから見た日本」 講師 マンスール・ジャーニュ氏	とやま外国人による日本語弁論大会(富山県青船会)

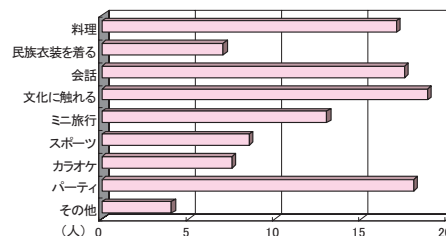
アンケート

ご協力ありがとうございました

来年の参考にしたいと思います

10月23日、24日に行われた富山市民国際交流フェスティバルに参加して下さった皆さんに感想、意見等をお聞きしました。外国の友達が欲しいと答えている人がかなり多く、フェスティバルばかりでなく、外国の文化に触れるパーティでのおしゃべりや料理教室、文化に触れる行事に対する期待が大きいことがわかりました。富山市民国際交流協会についてはまだ十分に知られていないこと、協会や行事などの情報提供が必要なことがわかりました。また、裏面では、“あなたの国際度をチェックしてみませんか、”もしました。

参加したい行事



募金

あなたの
やさしさを!

新潟県中越地震被災者へ

平成16年10月23日(土) 新潟県中越地方を中心に震度6強の地震が3回あり、その後も余震が続き大きな被害が出ました。私たちは、フェスティバル第1日目を終えて明日の準備などをしている時でしたが CiCビル3Fの当センターでも大きくゆれました。

フェスティバル第2日目、段ボール箱で即席に作った募金箱を会場のところどころに置いたり、持って廻ったりして、みなさんからあたたかいご協力をいただきました。

集ったやさしさの募金 53,200円は、義援金としてさっそく新潟県共同募金会へ届けました。



24のブースが参加しました



世界のお茶コーナー 中国茶



国際交流チャットコーナー

特集 民族衣装について

毎回、フェスティバルで人気の民族衣装試着コーナーでは、今年は和服の試着に外国の人たちの順番待ちができました。また、日本の人たちに人気があったのは、チマチョゴリ(韓国)、チャイナ服(中国)、サリー(スリランカ他)などで、担当する着付けボランティアは休むヒマなく汗びっしょりでした。

今回、インドネシアの人たちから、彼らの国の民族衣装について聞くことができたので紹介します。

インドネシア民族衣装

左端 グズジーさん

バリ島 結婚式・パーティーのときに着る民族衣装で、お祈りのときの衣装とは色が違う。

左から2番目 リカさん

ジャワ島 パーティーのときに着る

中央 ワスリアティーさん

ジャワ島中部 バニュマス地方の民族衣装

これは現代風のもので下はパンツスタイルになっているが、伝統的なものはサロン(巻きスカート)である。サロンやスタゲンとよばれる帯の着方は複雑なものもあり、インドネシア人でも着方が分からない人という。サロンのひだの数や位置は、地域や身分によって違いがあるそうである。

右から2番目 マストゥリさん

バリ島 観光客対象の現代風民族衣装で、現地の人はあまり着ない。

右端 マデさん

バリ島 お祈りのときに着る民族衣装

バリにはウク暦という月の満ち欠けによるカレンダーがあり、それに基づいて満月と新月のときに夜寺院(プ



ラ)に行く際、着用する。バリ島のヒンドゥー教徒にとっての最大の儀式は、ウク暦210日ごとに催されるオダランであり、寺院の厳粛な儀式であるとともに、神への奉納として芸能や屋台が出たりして楽しいお祭りでもある。

男性は頭にウダンという布を巻き、サファリ(上着)の下にサブッという布と巻きスカートのようなカマンを巻く。女性はクバヤ(上着)、カマン、スレンダン(帯)を身に着ける。

ウダンとサファリの色は白、サブッは白か着色であるが、黒は葬式のために着るものなので避ける。結婚式には、豪華な髪飾りや金をつかった衣装を着たり、おめでたい色の赤色も使われる。

お祈りは、花や水、米粒等を使い、プーマンクーと呼ばれる司祭に清めてもらう。

インドネシアは染料となる植物がたくさんとれるので、ろうけつ染めがさかんであり、「バティック」とよばれ、インドネシアのサロンはこのバティックを使うのが特徴となっている。

民族衣装試着コーナーから



多国言語文化交流クラス

ルーマニア & ルーマニア語

10月2日

講師 ヴァニェック・ユーリア氏(スピルハレット大学日本文学講師)

講師は、ブカレストの演劇・芸能大学で「お能の普遍」という論文で博士号を取得されたほか、日本語・文化・文学など関係の日本語通訳者として活躍中です。



9月21日から10日間程の予定で来日され、富山に興味を持ち日本の友人の紹介で当協会へ電話をしてこられました。そこで協会の行事なども紹介したところ「富山を知りたい。そしてルーマニアを知ってみたい」と当クラスのために時間をとり来富され、今回の交流の機会を得ました。

流暢な日本語で、ドラキュラ伝説や歴史、現在のルーマニアの情報、そして、2007年からEUに参加する計画があることなどを、郷土の民芸品なども提示しながら分かり易く話されました。

受講者たちは、遠くて遠いと思っていたルーマニアを知る貴重なひとときを楽しく交流しながら過ごしました。

マレーシア & マレー語

11月6日

講師 アハマド・ナジム氏(富大化学工学部4年)

世界でも数少ない豊かな大自然が残っているマレーシアは、マレー系、中国系、インド系、そして、ニョニヤ(マレー人と中国人の間の人)など様々な人種や民族が共存している多民族、多文化社会の国です。国教はイスラム教、公用語(言語)はマレー語となっております。マレー語は、AEIOUの母音でローマ字で表わすので読み書きはわかり易い。



ドイツ & ドイツ語

12月4日

講師 アニータ・パーレイ氏(高岡市役所研修生)

ドイツ語は、名詞の格変化があり動詞の活用が複雑である。ドイツ語の使用人口と日本語の使用人口は、世界全体では、ほぼ同じくらいだと言われている。

ドイツといえば、サッカーとビール。ドイツ人の4人1人は、スポーツクラブの会員で、もちろん最も多いのはサッカーである。また、ビールのおいしさの秘密は、16世紀から守られている“ビール純粋法”にある。バイエルン地方を中心として1,000軒以上のビール工場があり、6,000種類の地ビールがある…と。

日本語は、中学生の時から学んでいるというアニータさんは、流暢な日本語で話されました。

英語スピーチと討論の会(ESD)

12月特別例会 10月13日 18:30~20:00

テーマ 「Computer Science and Electrical Engineering in America」
(アメリカにおける情報工学と電気工学)

スピーカー ロバート・アロン・シャウマン氏(中央農業高校ALT)

講師は、コンピュータサイエンスを専攻し、その方面の会社に勤めた経験もあり、大学時代の学生時代の1日の過ごし方やコンピュータ技術者の仕事内容など多岐に渡り得意のコンピュータを使って話されました。変化の激しいこの業界でやって行くには常に最新の技術を身につけ、ステップアップを図るために、2、3年で会社を移るのも厭わないとの事でした。また大手のIBMやMSなどの内情や、現在の合衆国の人気の技術であるハイブリッド車や、MP3プレイヤー、超薄型スクリーン、デジタルカメラなどの話もされました。話したい内容が多くてつい早口になってしまったり、高度に専門的な単語が機械銃のように出てきたり、聞き取る方は大変でしたが、参加者たちには、とても刺激的な話で充実した時間となりました。



11月10日

テーマ 「The Way of Debate」(ディベート道)

スピーカー 永田 円了氏(元国際大学教授)

12月8日

テーマ 「Food in Europe & Food in Japan」
(ヨーロッパの食、日本の食)

スピーカー スロボダン パブコヴ氏(スポーツ国際交流員水球コーチ)

今回の会は、参加者たちが外国旅行をした時に経験した各国の食や日本の食について、ディスカッションの形ですすめられました。

講師は、2003年8月から富山北部高校で水球を指導して、今季は全日本ジュニア選手権準優勝、高校総体4位に導きました。また、昨年12月14日から30日まで同校の生徒ら10人と母国であるセルビア・モンテネグロ(旧ユーゴスラビア)に遠征し、交流と競技力の向上をめざすなど情熱ある熱血指導員です。生徒たちは、貴重な体験と国際交流など多くのことを得ました。

これらの講話・座談・討論などすべて英語で行なわれました。

国際教養委員会

日本伝統文化の紹介



「茶 道」

講師(会員)
亀田 文子さん

11月28日
星井町公民館

富山在住の外国の人たち13人が参加しました。はじめに講師の一通りのお点前を見学した後に、数人づつが向かい合わせに座って、お茶を点て、相手に飲んでもらいました。

ちょっと窮屈な感じでしたが、最後にはお別れのあいさつも正座で手をついてしとやかに終わりました。

ダーラム市議会議員視察団と交流

富山市の姉妹都市米国 ダーラム市から市議会議員2名とその家族が行政視察として、10月26日から29日まで富山市を訪問されました。市議会事務局が計画された「五箇山合掌造り見学会」に当協会の会員らも参加しました。



10月29日 五箇山

世界文化遺産にも登録されている大自然と合掌造りや、井波の瑞泉寺など古い日本文化にふれながら絆を深め、たのしく交流し、来年にはダーラム市で再会することを約束しました。

また、28日には、当協会を訪問され昼食会が催されました。

友好親善奨学金を支給

11月16日、梅澤姉妹友好都市委員長は、平成16年度秦皇島市人民対外友好親善奨学金 100,000円を場家当協会事務局長の立合いのもと秦皇島市医学研修生 王智文さんに託しました。



王さん(左)と魏さん(右)

この制度については、10年を経過し、当協会では一定の役割を果たしたものと理解しており、このことから平成16年度をもって終了することとしております。

なお、王 智文さんは、魏 鵬さんと10月24日から11月17日まで富山市民病院へ医学研修生として来富していました。

姉妹友好都市委員会



「和楽器体験」

講師(会員)
長谷川千恵子さん

11月7日
当センター

「箏」の演奏と「日本のうた」も歌いました。“さくら”と“かぞえうた”を口遊みながら少しずつすすめて習いました。参加者たちは、上達が早く、終る頃には、「箏とうた」どちらもすっかり上手になりました。

文化交流委員会

立山カルデラ現地視察会に参加して

9/4の〈立山の崩れと生きる〉ボランティア養成講座の後、講師の吉友嘉久さんが立山カルデラ現地視察の機会を作ってくださいました。多くの観光客が訪れる美しい立山とは裏腹に、いくたびかの災害を繰り返してきた立山カルデラ。「砂防工事」とはなかなか耳慣れない言葉ですが、立山と我々富山県民にとっては切っても切れない重要な事業なのです。



10月19日 高瀬B.オクサーナさん(ロシア出身)も参加しました

立山カルデラ砂防博物館にて説明を受けたあと、参加者全員ヘルメットをかぶり、砂防専用軌道のトロッキ列車に乗って出発です。飛び出した岩の下をくぐりぬけたり、滝が流れるトンネルを通ったり、まるで遊園地のアトラクションのようでしたが、なんといっても圧巻は、急斜面を前進後退を繰り返しながら登っていく連続18段スイッチバックでした。

「SABO」という言葉が世界共通語になっているということからも、いかに日本の技術が優れているかあらためて認識しました。我々富山県の砂防工事は日本有数の技術、ひいては世界に誇る技術の集大成なのです。新潟や福井での集中豪雨による被害がおきた今、あらためて自然の恵みと表裏一体の災害に目を向けることの重要性が問われているように感じました。

事務局外国人相談員 松見多鶴子

料理交流会「インドの家庭料理」



チキンカレー プリケサリ(デザート)

講師
バラヴィーナ・ボッラ氏
(インド出身)

11月18日
エルフ富山

いろいろな国の人たち13人が参加しました。チキンカレーは、日本の家庭のとろりとしたカレーと違って水気がまったく無く、たくさんのスパイスを使って作りました。辛い！デザートのカサリは、日本の「ういろう」のような食べ物ですが、カルダモンの風味にインドを感じました。

年忘れパーティー

家族や友達と誘い合い、外国の人たち(7ヶ国30人)と会員ら46人が参加しました。弁当や果物を食べながら歓談し、自国のクリスマスや年越しのことを話したりたのしく交流しました。



12月12日 当センター

また、豆つまみりレーやいくつかのゲームで盛り上がり、師走のひとときを過ごしました。

ボランティア委員会

お知らせ

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643

行 事	日 時	と ころ	担当委員会	会 費	対 象
新春国際交流のつどい2005	1月8日(土) 14:00~16:00	CiC 5F 多目的ホール	合 同	外国人 無料 日本人 1,500円	外国人 会 員
多国言語文化交流クラス (モザンビーク&ポルトガル語) フェルナンド ジュニア氏	2月5日(土) 13:30~15:00	当センター	国際教養	200円	会 員
和紙工芸教室(和紙人形)	2月6日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	100円	外国人
料理交流会(セルビア・モンテネグロ)	2月17日(木) 10:00~13:00	エルフ富山	ボランティア	300円	外国人・会員
TCAカレッジ 『イスラムとは何かー 恐ろしい残酷な教えなのか』 岡倉 徹志氏 富山国際大学教授 (2/26 9:00~10:30)	2月25日(金) 18:30 集 合 ~26日(土) 12:00 解 散	富山観光ホテル	総務企画	1泊2食付 7,900円	会 員
もっと知ろう世界の街	3月13日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	無 料	会 員

講演会 「外国人受け入れ問題に関する提言」

11月18日(木) 10:30~12:00 当センター

講師 井上 洋 氏 (社)日本経済団体連合会総務本部長



1990年の入管法以来、いわゆる高度人材といわれる外国人に加え、日系人を中心とする、現場で働く外国人の来日・在留が増加しており、定住化も進んでいる。それに伴い、就労や子弟の教育、医療など、多様な問題が顕在化してきた。

これを受け、日本経団連は2004年4月、『外国人受け入れ問題に関する提言』をとりまとめた。提言では、「日本の社会や経済に活力を取り戻すために、国民一人ひとりの付加価値創造力を高める必要があり、そのプロセスに外国人の持つ力を活かすことが重要である」という考え方を示した。今日、企業経営には、「異文化経営」の考え方が採り入れられてきており、外国人の力を活かすために人事制度などの改革に取り組む企業も少なくない。

その一方で、外国人を多数受け入れている都市では、自治体やNPOが受け入れに伴う様々な問題の処理に追われている。今後は、自治体やNPOのみならず、国も“多文化共生社会”の実現に向けて、在留資格制度の改善や新しい就労管理の仕組みづくりを進めるなど、実態に即した施策を展開していくことが求められる。

当協会では、同氏を迎えて多文化共生社会へのステップである本提言を巡り話しを伺う機会を得ました。緊急な計画でしたが国際交流にかかわる職員や日本語教師など30余人が参加しました。

“外国人受け入れの基本理念は「共感と信頼」である”。として労働力人口減少の埋め合わせとしてではなく、受け入れ側、送り出し側双方にとってメリットのある受け入れでなければならないと説いて「外国人の受け入れは、丁寧にしかりと…」と話されました。

7市町村の合併に向けて

平成17年4月1日 新市「富山市」が誕生します。

それにともない、合併7市町村の国際交流関係団体等の初会合を、2月頃に開催することが予定されております。

会員みなさんへ〈会費納入〉のお願い

○会 費 1口 個人 3,000円 家族 5,000円
団体・法人 10,000円

○納入方法 ①当協会窓口
②振込の場合は
北陸銀行富山市役所出張所
口座 富山市民国際交流協会
普通預金 No.4076440

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。最近では、西暦で表わされる事が多くなって来ました。「昭和の××年は19××年になるのかな？」などとなったり、また、年号をついつい忘れがちですが今年は、2005年。平成17年です。

10月のある日「ナリニー」です。私は、11月に夫の実家のある秋田県へ引越します。お別れ会をします。必ず来てね」と電話がありました。タイ・バンコク出身のナリニーさんは、トンネル工事等の技術者としてタイに派遣されたご主人と知り合い結婚して富山にきたそうです。1997年 私は、日本語をあまり話せないナリニーさんに出会いました。そして、病院のこと、買物のこと、日常生活で困った時、さみしい時に話を聞いてオカアサンと呼ばれました。

11月9日、ナリニーさんのお別れ会に出席しました。会議室を借りたという会場は、料理が、香りが、音楽が、そして人たちが、そこはまさしくタイでした。インドや韓国などの人たちもいましたが、タイの人たちのなんと多いことか…。私の隣の席になったタイ人の西野さんは「富山にタイの人たくさん住んでいます。子供もいて幸せな人、子供もいて不幸な人、いろいろいます」と話しました。

いま、富山市には61カ国 4,163 人の外国人の人たちが住んでいます。(H16. 11. 30現在) 今後、多様な文化と価値観を持つ人々が一緒に暮らすためには、違いの大切さを認め合いながらお互いを尊重して、共に豊かに暮らすことができる「多文化共生の社会」に向けて、できることから一つひとつ実施していかなければなりませんね。みんなが共に生き生きと暮らせる魅力ある町づくりをめざして…!

広報委員長 岡田昌代